

と も に 育 つ
育 む !

なぜなぜ期の
乗り越え方

いやいや期が落ち着いたと思ったら、「なぜ?」「どうして?」の質問攻め! そんな「なぜなぜ期」の乗り越え方を 守安あゆみ先生にお聞きしました。



2〜6歳頃の子とも達は
知りたいことがいっぱい!

教えてくれたのは...

認定NPO法人コクレオの森 副代表理事
守安あゆみ 先生



オルタナティブスクール「菜園こどもの森学園」スタッフ、認定子育てHATマイスター、メンタルファウンデーション認定コーチとして、子育て講座やファンリテーター講座を行う。共著に『みんなで作るミライの学校!』(築地書館)など。

子どもがたくさん質問してくるのは、興味関心が外に向かい、子どもの世界が広がってきた証拠でもあります。子どもが「なんで?」「どうし

質問攻めの子ともと
上手に関わるためのコツは?

「なぜなぜ期」とは、幼い子どもが身の回りのものやできごとについて「なぜ?」「どうして?」と繰り返し質問する時期のこと。心理学的には「質問期」と呼ばれ、だいたい2〜6歳頃といわれています。ヒトの脳は3〜6歳の間に成人の80〜85%まで成長するといわれており、この時期に、子どもは見える世界がどんどん広がります。言語能力も発達します。さまざまなものやできごとに興味関心が沸き上がるため、親としては、日々子どもから質問攻めにあい、イライラしたり、答えに窮することもあつたりして、なかなか大変な時期でもありますね。

「なぜなぜ期」には個人差も:
内面を豊かにできる環境が大切

何でもかんでも質問攻めの子ともいれば、もともと口数が少ない子や、静かに観察するタイプの子ともいます。「なぜなぜ期」があるかないかは問題ではなく、子どもの内面を豊かにする環境があるかどうかが大切。例えば自然の中には不思議がいっぱいあるので、里山に出かけたり、遠出をしなくても家の周りを散歩して自然に触れることで世界は広がります。ぜひお子さんと一緒に不思議探しをしてみてください。

答えは正解でなくてもOK!
まずは質問を受け止めて

この時期の子ともはまだファンタジーの世界に生きていますので、必ずしも科学的に正しい知識を伝える必要はありません。例えば「なぜ風は吹くの?」と聞かれたら、「風さんはお洗濯を乾かしてくれてるんだよ」「○○ちゃんが書いてくれたから

この時期だけのファンタジーを
親子で一緒に楽しんで

子どもの考えた答えは科学的に正しくないこともたくさんありますが、先ほどもお伝えしたように、「なぜなぜ期」の子ともはファンタジーの世界に生きています。ですから、科学的でなくても、正しくない答えでもよいのです。成長と共に正しい知識は身につけていきますので、「なぜなぜ期」ならではの答えを親子で一緒に楽しんでいただければと思います。「なぜなぜ期」があるうと、なかなうと、目の前の子どもをまるごと受け止めて、温かいコミュニケーションをすることで、子どもの心は健やかに成長していくことでしょつ。

子どもの好奇心を育てる答え方

- 簡単な質問ならその場ですぐに答える
- インターネットや本と一緒に調べてみる
- 「どうしてだと思ふ?」と子どもに質問してみる
- 「パパに聞いてみよう!」とわかる人に聞いてみる
- 忙しい時は「今は忙しいからあとで一緒に考えよう」と正直に伝える

大切なのは
正しい答えではなく、
子どもの質問に
向き合うことです。

